

第11期 子ども大学はにゅう

活動記録(令和3年度)



8月19日(木)開催

入学式

時間： 12:40~12:50
会場： 埼玉純真短期大学

8月19日(木)、2年ぶりの開催となった「子ども大学はにゅう」に、市内の小学校4~6年生の子どもたち14名が入学しました。今日は1日大学生の気分で、楽しく学びましょう!

アイスブレイク

時間： 12:50~13:20
会場： 埼玉純真短期大学
講師： 羽生市青少年相談員

この日初めて出会った子どもたちがより早く打ち解け、子ども大学をより楽しく過ごせるように、青少年相談員のお兄さん、お姉さんのもと自己紹介を交えた「アイスブレイク」を行いました。初対面の相手ともすぐに仲良くなり、友達の輪が広がった様子でした。



埼玉純真短期大学のマナー実践室で入学式を行いました。藤田学長と秋本副学長から、子ども大学で学ぶ意義や心得、疑問に思ったことは周りの大人に聞くことの大切さについてお話しがありました。14名全員が初めての参加ということもあってか、緊張した面持ちで真剣にお話しに耳を傾け、今日の学びを心待ちにしているようでした。

今年のカリキュラムも、科学の実験マジックショーや市内の企業訪問、プログラミングなど、小学校の授業では体験できないような魅力的な講義をたくさん用意しました。



アイスブレイクが始まります。まずは「となりのとなり」という自己紹介ゲームでみんなの名前を覚えましょう。次に「バースデーライン」という誕生日順に並ぶゲームをしました。声を出さずにジェスチャーだけで、お互いの誕生日を把握しなければなりません。続いて、「後出しじゃんけん」や「インパルス」などのゲームをしました。その中でも1番盛り上がったのは「インパルス」でした。全員で1つの円になり、隣の人にウインクをして、1周が何秒で回るかを計るゲームです。タイムを計るたびに速くなり、記録の更新に挑戦しました。いろいろな種類のレクリエーションで楽しく遊びながら仲を深め、講義を受ける準備万端です。

講義 I

「おもしろ実験講座
～磁力・薬品・音の不思議マジックショー～」

時間： 13:20~14:05
会場： 埼玉純真短期大学
講師： 清水 登 先生(元熊谷市立妻沼南小学校校長)
原口 政明 先生(埼玉純真短期大学)

最初の講義は、参加型の科学の実験です。博士のかっこうをした先生がお手製の傘袋ロケットを片手に陽気に登場すると、学生からは歓声があがりました。

傘袋ロケットとは、雨の日にお店や公共施設などにあるビニールの傘袋に空気をいれて作ったロケットのことです。みんなで飛ばして盛り上がり、目を輝かせワクワクしている姿に、この講義への期待が大きかったことが表れていました。いよいよ不思議なショーの始まりです。



講義はテンポよく進んでいきます。ペットボトルロケットやホバークラフト、浮力と磁力、おさるさんの木登り、ふりこマジック、空気砲などなど、次から次へと披露されるショーのような実験に、学生は釘付けでした。また、わかりやすい解説に加え、学生自らが考える時間が設けられ、科学への興味をさらに掻き立てていました。

この講義の最後は、先生が作製した「くす玉」を割ることになりました。誤ってひもを踏んでしまい、ひもがとれてしまうハプニングもありましたが、最後は見事に割れました。中から「ようこそ! 子ども大学はにゅうへ」の文字が書かれた垂れ幕と紙吹雪が出現し、学生からは大きな拍手が沸き起こりました。

1つ目の講義が終了し、純真バスに乗って次の講義会場へと向かいます。



講義Ⅱ

「はにゅうの産業と歴史を知ろう
～創業80年！世界が認める特殊ねじの製造～」

時間： 14:35～15:35
会場： 株式会社キットセイコー
講師： 田邊 弘栄 先生(株式会社キットセイコー)

2つ目の講義は、株式会社キットセイコーを訪問しました。「ふるさと学」と題し、子ども大学はにゅうの目玉となっている市内企業での講義です。

株式会社キットセイコーは、日本初の人工衛星「おおすみ」から小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」などに使われているオーダーメイドの特殊ねじを製造している企業です。講義に加えて、工場の見学もさせていただきました。



講義の後はお待ちかねの工場見学です。工場内はたくさんの機械がところ狭しとならんでいて、ねじができる瞬間を目の前でみた学生は機械に顔を近づけて興味津々です。日々技術を磨いている社員の方が熱心に説明をすると、学生はたくさん質問をしていました。小さなねじにも様々な種類があり、実際に見て触れて貴重な体験ができました。そして、市内企業の素晴らしさやものづくりの楽しさを実感できた講義になりました。

まずは講義です。身近なねじですが、日本に初めてねじが伝わったのは約500年前。種子島より伝来したそうです。ねじの豆知識や宇宙関連のクイズも交えながら講義は進んでいき、学生たちは積極的に挙手をして答えていました。また、ねじは宇宙産業以外にも鉄道事業やF1のエンジンなど、オーダーメイドの強みを生かした様々な分野で使われていることを学びました。



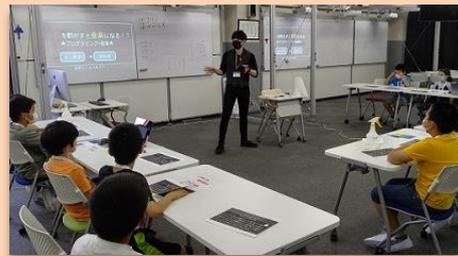
講義Ⅲ

「からだを動かすと音楽になる?!
～音楽×プログラミングで広がる世界～」

時間： 16:05～17:05
会場： 埼玉純真短期大学
講師： 小澤 俊太郎 先生(埼玉純真短期大学)

最後は、プログラミングと音楽を組み合わせた新しいタイプの講義です。

プログラミングは無尽大の可能性を秘めていることを学んだ学生は、「はやく試してみたい!」とうずうずしている様子。始めに今回使用するソフトウェア「KAGURA」の使用方法を学びました。耳慣れない専門用語もあり、パソコン操作に悪戦苦闘する様子も見られましたが、チームで協力しながらオリジナルの楽曲を作りました。



この講義のキーワードは「論理的思考」です。一人ひとりが、コンピューターに命令を書いて動かします。リズム、メロディー、ハーモニーなどのパートごとにオリジナルの楽曲作りに取り組みました。コツをつかむと、どんどん進めていきました。

最後は頑張って作成した楽曲を披露しました。想像力豊かな学生の表現方法は十人十色。楽曲のベースは同じでも、一人ひとりメロディーが違います。楽曲が披露される度に周りから拍手が送られ、とても温かい空気の中、最後の講義が終了しました。

修了式

時間： 17:10～17:30
会場： 埼玉純真短期大学

楽しい時間もあっという間に過ぎていきました。入学式の緊張していた様子とは違い、笑顔にあふれ、達成感のある様子で式に臨んでいました。



マナー実践室で修了式を行いました。藤田学長から学生一人ひとりが修了証書を受け取り、今日の感想を発表しました。「実験でボールが浮く仕組みをみんなで一緒に考えたのが楽しかった。」「羽生の産業のことを学べたので、家に帰ったら家族に話したい。」「プログラミングで自分の曲が作れた。からだを動かすと音が出るのが面白かった。」など、講義を振り返りながら楽しそうに話す姿から、充実した様子が伝わってきました。

コロナ禍により感染拡大防止対策などの制限がある中での開催でしたが、どの講義も、子どもたちにとって忘れられない貴重な体験になったと思います。これからも、たくさんのことに興味を持って、楽しみながら学んでいってくださいね!

来年も、参加者もしくはサポーターとして会えることを楽しみにしています!!

みんなと一緒の記念写真



式終了後に、藤田学長、秋本副学長を交えて記念撮影を行いました。
※写真撮影時のみマスクを外しました。

発行日 令和4年3月
発行・編集 子ども大学はにゅう実行委員会
(埼玉純真短期大学・(一社)羽生青年会議所・
羽生市青少年相談員協議会・羽生ロータリークラブ・
羽生市教育委員会)
協力団体 アロハガス(株)・(有)シガ工芸